

ひとてまを楽しむ

オーブンラボ新聞

発行人
StudioNoguchi



6月30日(日) OPEN LABO. 危機管理学部&薬学部 合同開催 集合写真 「実験が成功して拍手！」



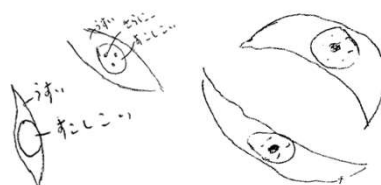
- ▶錠剤の仕組み：
錠剤を作り、機器で評価してみよう
- ▶海岸にでて漂着物を調査しよう！
- ▶あなたもチーズ職人！
今回はモッツァレラチーズ
▶作って実感、使って感動！
指示薬メチルオレンジを作ろう！
- ★インフルエンザ検査体験により診断に関わってみよう！（2面特集記事）
- ▶家庭にある道具だけで、
様々な食材からDNAを抽出してみよう。
- ▶身の周りに存在するバイ菌を
見てみよう、育ててみよう！
- ▶動物看護師を体験してみよう！

サンプルを作る・見る

2024年6月30日(日) 本年度二回目のオーブンラボが開催された。参加者は22名。大学構内の大実験室にて、今回も楽しみながら学べるホンモノ体験が始まった。

今回は顕微鏡を使い、バナナやタマネギ、ヨーグルトなどの食材、川や池などの水中に生息している生物を観察した（小濱グループ）。また、ヒトの細胞が動き回ったり、増殖したりする様子を動画で見た（佐々木グループ）。

オーブンラボでは用意された標本を見るだけではない。標本の種類や見たい対象に合わせた染色などの「ひとてま」が必要である。参加者は顕微鏡を使用した観察だけでなく、この「ひとてま」である標本づくりを楽しんだ。（二面つづく）



細胞の染色にチャレンジ（左）細胞観察のディスカッション（右）



「OPEN LABO.」紹介動画
講師の雰囲気がかめる！！



大学HP「OPEN LABO.」
テーマ概要や予約ができる

達人に成長

たった1時間で顕微鏡のピント合わせの達人に!!

標本の観察



顕微鏡と観察する標本の説明後に実験が始まった。各自、観察したい標本を選択し、「ひとてま」を加えた後観察に入る。初めは遠慮がちな操作であった来場者の手つきも、終盤では熟練の生物学者のようであった。

来場者の声



▽顕微鏡のピントを合わせるの、と〜でも難しく、できたときはとても嬉しかった。

▽細胞をそだてたり、分裂させたりと、あいちやくがわく気がします。

▽色をつけたり細胞を比べたりしたのが楽しかったです。またやってみたいです。

▽指導してくれた学生さんが、受験の相談や雑談に付き合ってくれました。

▽本当にヨーグルトには生きた菌が入っていることが知れて、嬉しかったです。

オープンラボを終えた学生の声

▽参加された方々が楽しんでいる様子を見て、とても嬉しく思いました。ヨーグルトの中にある乳酸菌の観察の難易度が高く、少々不安がありました。見せることが出来てよかったです。今回の経験で人と関わることの楽しさと大切さを改めて学ぶことができました。

▽年齢によって知識も違うため、ミクロの世界は面白いということ言葉を選びながら説明しました。私は将来、博物館や水族館で来館者に向けて展示の解説などで魅力を伝える仕事に携わりたいです。今回の経験を活かし、今後もっと成長出来たらと思います。



小濱ゼミ所属のボランティア学生

7/21 特集

インフルエンザ検査体験に
より診断に関わってみよう!

みなさんインフルエンザにかかったことはありませんか?

実はインフルエンザウイルスは形の違いでA型・B型・C型の3つに分けられます。そのうちA型とB型のウイルスが冬場に大きな流行を起こします。このウイルスは、感染者の咳やくしゃみで周りに飛び散った飛沫を吸い込んだり、手や物に付着して口の中に入ると感染します。

インフルエンザになると
その症状は?

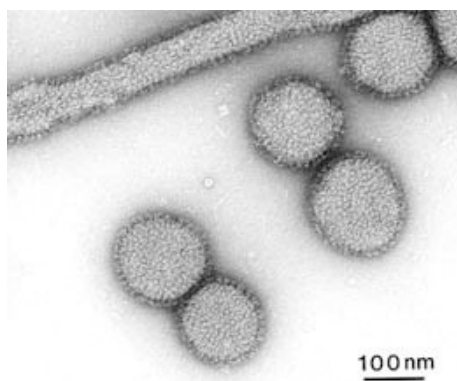
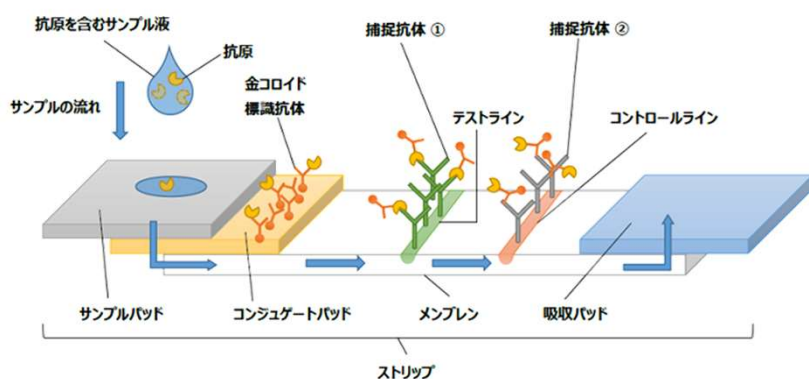
インフルエンザは高熱が出たり、全身のだるさなど急激に現れることが特徴です。また子どもや高齢者、妊婦、また免疫力が弱っている人が感染すると、肺炎や、インフルエンザ脳症、息切れや呼吸困難などの症状に発展しやすいので迅速診断と治療が必要です。

体験していただくこと

今回インフルエンザウイルスの説明と実際に病院でやっている検査法について一緒に体験してみよう!

インフルエンザウイルスを捕まえるしくみは? 抗原抗体反応ってなんだ?

イムノクロマト原理



100 nm

インフルエンザウイルスの拡大写真